

未来づくり懇談会（針生）会議録

日 時：平成29年8月3日（木）

18：30～19：48

場 所：針生自治公民館

出席者：市長、教育長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

○持続可能な矢板地区のまちづくりについて

・資料に基づき、人口・高齢化率推移等を説明

Q 1 少子高齢化は矢板ばかりのことではなく全国的なことなので、マイナス思考にならない方がよいのではないか。今の状況を受け入れ、その中で最大に生かせることは何かと模索しては。

A 1 国の地方創生の取り組みには、克服戦略と適応戦略の二つがある。克服戦略というのは、人口減少に歯止めをかけて少しでも増やす方向にもっていくこと。適応戦略というのは、ある程度高齢化し人口が減っていくという状況を受け止めながら、何とか地域コミュニティ、行政サービスを維持していくという考え方。人口減少は全国的な問題。増やすだけの作戦では難しい。例えば、針生行政区における高齢社会をどのように受け止めるかが必要になる。

Q 2 矢板市の行政は自業自得だ。自転車であちこち走っているが一番道路が悪いのは矢板市。インターネットで矢板市全体を見ると空き地が多い。私は昭和54年に引っ越してきたが、全然変わらない。

A 2 中心市街地は空き地、空き家が目立つ。大きな理由として、矢板の街中は公団混乱地域なので、土地の利活用が上手くできない。地籍調査に予算をかけて見直しをしていきたいと思う。土地区画整理をやれば一番いいのだが、財政的に余力がない。

Q 2 市長が考える矢板市の将来像は。

A 2 子どもや孫が帰ってくるまちと言ってきたが、矢板生まれ矢板育ちの人が、なぜか就職や結婚をきっかけに矢板の外に出て子育てをしてしまう。人口も多く予算もある市町と戦っていくためには、「あれもこれも」ではなかなか難しい。「こ

れだけは」と思うものを、よそのまちに負けないというものを作っていく必要がある。それは子育て環境だったり教育環境だったりという話になるが、周りから頭抜けたものを考えなくてはならない。イメージとして今あるのは「共働きしやすいまち」。給与が伸びず、かつ女性の社会進出が進んでいる中で、共働きしやすい環境を作ることが、家を建てて住んでくれるということの大きなポイントになると思っている。

Q 3 「子どもや孫が帰ってくるまち」というのは、もともと矢板にいる人を前提にした話。どちらかという後ろ向き。毎日若い人（高校生）が矢板には来ている。そういう人たちが高校生活終わって大学が終わって矢板に戻って何かしたいな、と思える仕組みを市の中に作るべき。

A 3 市の中ではないが、矢板武塾を以前から行っている。昨年度からは高校生にも入ってもらい、矢板の中心市街地の活性化についてプランを発表してもらった。今年は参加者を高校生限定にし「高校生が集まるまちづくり」というテーマで研究してもらっている。

平成 28 年度	矢板武塾の開催	参加人数：13 人（うち高校生 9 人）
平成 29 年度	矢板武塾の開催	塾生主導で「高校生の居場所づくり」について検討。参加人数：11 人（すべて高校生）
平成 30 年度	高校生を主体とするまちづくり団体の活動を目指す。 継続的に高校生が主体となった活動を支援。	

Q 4 高齢者へのサービスを全部下請けに任せている。施設管理公社やシルバー人材センターなど、市の職員が考えていない。サービスが間違っていると思う。矢板市民を良くしようと思うなら、市役所の職員が一生懸命にしなければならない。

A 4 行政の仕事を民間委託する流れが進んでいるのは紛れもない事実。効率は良くなったが十分なサービスが提供できているか、ということは議論があることは承知している。ただ矢板市だけがなんでも下請けに任せているということではない。

Q 3 以前、「教育力」といっていたが、ここ数年、市の学力テストの結果が平均よりも低い。これで子育てに人は来るのか。

A 3 市の点数は全国平均を確かに少し下回っている。全国的には点数が 2 点か 3 点の差しかない。実際はそんなに点数が低いわけではない。学力の充実はいろいろやっている。家庭学習でのノートコンテストを始めたり、公民館を使って学習塾と提携し、土日に勉強できるような環境を整えている。もちろん学校の中で授業力を高めていい授業ができるようにしている。いろいろなところで勉強できるように、チャンネルづくりをしている。

平成 29 年度	家庭学習ノートコンテストを実施。 塾等との連携による学習教室の実施。 各学校では、授業改善に向けての研究等行っていく。 学力向上応援団・道徳教育応援チーム・学力向上推進リー	
----------	---	--

<p>平成 29 年 12 月 平成 30 年度</p>	<p>ダー事業を通して国語・算数・数学・道徳の授業改善、指導力の向上を図っている。 英語科 DVD を作成し、市内全小学校に配付 学力向上応援団事業の継続。 学力向上推進リーダーを 1 名から 2 名に増員。 リーダー配置校を増加。 英語科 DVD（第 2 弾）を作成予定。 外国語活動の専科教員を小学校 4 校に配置。</p>
----------------------------------	--

Q 4 風評だからわからないが、学級崩壊のようなものはないのか。

A 4 矢板中で県と市の教育委員会で訪問をしたが、矢板中がかなりの成果を上げ、安定して落ち着いた学校になってきている。そこの学校に入りたいという生徒も出てくるのではないか。

6 閉 会 19 : 48